

スクラムにおける事故の防止

参考リンク

http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby_union/rules_and_equipment/5410346.stm

http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby_union/english/5301808.stm

http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby_union/english/5298380.stm

http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk_news/england/leicestershire/5211780.stm

スクラムに於ける後遺症を伴う事故は絶対に防止しなければなりません。

イングランドにおいても事故が皆無でなく、スター選手の事故もあって大きくとりあげられています。ラグビーの健全な発展を損う重大問題を、真剣に受け止め対策が練られています。

1960年代、現代ラグビー発展の過程で、スクラムの理念と組み方が議論されて、バイブル The Guide for Coaches の中に提示されました。バインドの仕方と足の位置から押し合いではなく、ボールの入れ方と合わせて、ボールの取り合いという方向性がしめされました。しかし、flair より power を重視する勝利至上主義が横行し、問題が軽視され弊害が常に存続しました。この度のイングランドにおける議論と申し出はその反省と危機感の上になったもので、私達も真剣に考え対策を講じなければなりません。

2006年のIRBのルール改定には入っていませんが、ルールの文言とイングランドでの動きを考察しましょう。

スクラムを組むとき

(Laws of the game, Law 20, 20.1 FORMING A SCRUM, (g) Front rows coming together.)

First, the referee marks with a foot the place where the scrum is to be formed. Before the two front rows come together they must be standing not more than an arm's length apart. The ball is in the scrum half's hands, ready to be thrown in. The front rows must crouch so that when they meet, each player's head and shoulders are no lower than the hips. The front rows must interlock so that no player's head is next to the head of a team mate.

• • • **they must be standing not more than an arm's length apart** • • •

ではなく、

In its current form, Law 20, which relates to the scrum, states that front rows should be "not more than one arm's length away from the opponent's shoulder" before they engage in the scrum.

• • • **front rows should be not more than one arm's length away from the opponent's shoulder**

そして、referee としても、組み方について、

Under new regulations proposed, the referee would oversee a safer way of bringing the two sets of forwards together.

安全に組まれているか「監督する」義務があることが加えられています。

スクラムのルール改正には、いつも非難 hue and cry が着きまとうものですが敢えて実施するのはそれだけ危機感があるからです。

イングランドで事故が **too many** と言っていることのもっていませんが、大事故がゼロでなかったとしても、2桁もあったとは思えませんが、ゼロでなくてはならないのです。

チームとしてまた関係者として、マスコミに大きく騒がれることを避けようとするのはフェアではありません。この度のイングランドの動きは学ぶべきところが多いです。

2006.12.17

西川 義行

スクラムに関するコラム余談

インターネットで次のようなイングランドの情報を読みました。

“ スクラムに関するルールについて発言すると「ごちゃごちゃ言うな」といった非難を受けますが、事故が非常に多いので敢えて提言する ”

提言の内容は、スクラムを組むときに両サイドの間隔を狭くして衝撃を少なくすることを目的とするものです。この問題に関しては以前からいろいろと議論されてきましたし、ルーリングにも加味され改定されてきました。

この情報に対して上記コラムを書きましたのは、ハインリッヒの法則を思い出したからです。一つの大きな事故には、それ以前に 29 個の小さな事故があり、300 の小さな事故一步手前の小さな小さな事故があるもので、1:29:300 というのがハインリッヒの法則です。

大きい事故が起きてからでは遅いのであって、小さな、さらに小さな小さな問題を確実に措置・解決しなければならないことを教えています。

人間は見たくないものには目をそむけて見えないものです。組織体が大きくなればなる程小さな・小さな小さな問題が上層部に伝わりにくいものです。小さな問題を取り上げ真剣に対処していく組織が必要で、ルールを身近なものとする風土が大切です。